

新たな奥出雲ブランドの創設を 仁多協同食品が工場を新設



覚書を締結し、三者で握手

加工食品の製造、販売を行っている仁多協同食品では、地元安心・安全な農産物を使った新商品の開発、製造を強化するため工場を新設することになりました。

島根県では条例に基づき同社に支援を行うため、立地計画認定書の交付並びに覚書の調印式が四月二十八日、県庁において行われました。式では澄田知事から落合秀雄代表取締役が認定書が交付され、続いて濱崎出雲町長職務執行者へ覚え書に調印をし、新たな奥出雲ブランドとしての成功を祈りました。新工場は高尾地区内の七四

〇〇平方メートルの敷地内に建設され、地元の農家や建設業者と協力し、野菜を使った様々な惣菜やキノコ類の加工品製造、将来的には周年栽培を視野に入れた新商品の開発も行います。

また、国営農地三百ヘクタールを活用し、契約栽培農家の育成も併せて行います。

総事業費は約一億三千三百万円で、操業後三年で二十五名の新規雇用を計画しています。

今後この工場新設に伴い、島根県では投資額の十分を助成、町では三年間の固定資産税免除などの支援を行います。

シーズン中の安全を祈る 「鬼の舌震」川開き安全祈願祭



観光シーズン中の安全を祈り、ヤマメを放流

奥出雲を代表する景勝地「鬼の舌震」の川開き安全祈願祭が四月二十日、現地において行われました。

「鬼の舌震」は、峡谷と清流が織り成す神秘的な景観と上流部の「一ノキ」にわたるバリアフリー遊歩道の整備、アクセス道となる玉湯吾妻山線の大規模改良などの一体的な整備、また松本清張原作のテレビドラマ「砂の器」のロケ地にも選ばれたこともあり、年間約十万人の観光客が訪れています。

安全祈願祭には、濱崎観光協会副会長、糸原県議など関係者約三十名が出席し、神事を行い観光シーズン中の安全を祈りました。

また、玉日女橋からのお神酒流しの後、今年はやまめの稚魚三百匹が濱崎観光協会副会長、タイ出身の奥出雲町国際交流員ハンニー・セーリムさんらにより放流されました。本格的な観光シーズンを迎え、今年も癒しと行楽を求めて全国各地から多くの観光客で賑わいます。

見ごろのシャクナゲが満開 横田でシャクナゲまつり

横田地区のむらくもの丘に植えられたシャクナゲが見ごろを迎えた五月一日、商工会横田支部、やっちゃんら会の主催で第六回シャクナゲまつりが開催されました。

遊歩道が整備された園内には、シャクナゲが一面に咲き誇り、あいにくの雨にもかかわらず多くの観光客が鑑賞に訪れていました。

会場内では、馬木乙女会による銭太鼓の披露、お楽しみ抽選会や各種のゲーム、苗木の販売などが行われました。また今年も、プロ演歌歌手・七瀬もみじさんの歌謡ショーも午前と午後の二回にわたり行われました。七瀬さんは、奥出雲町を舞



「忘れないで奥出雲」を歌う七瀬さん

奥出雲たたらと刀剣館で 日本刀鍛錬実演 抜刀実演を開催

奥出雲たたらと刀剣館では大型連休中、小林日本刀鍛錬場一門による日本刀鍛錬実演が行われました。

本町のたたら製鉄は、現在、世界で唯一、量産の直接製鋼法により日本刀の原料となる和鉄「玉鋼」を生産しており、テレビ番組でも度々取り上げられています。

連休中は、この日本刀鍛錬を一目見ようと、町内外から



組み太刀の披露

多くの方が訪れました。

また五月五日には、高知県の土佐抜刀道連盟より樋口功氏、境泰雅氏の二名をお迎えしての抜刀実演も行われました。

日ごろ目にすることの少ない真剣での試し斬り、組み太刀などが張り詰めた雰囲気の中披露され、見学者は真剣なまなざしで見守っていました。

カタクリの花と眺望を堪能 船通山でカタクリ登山

「みどりの日」の四月二十九日、カタクリの群生地として知られる船通山でカタクリ登山が開催されました。

町内外から参加した約三百名は、鳥上滝コース、亀石コースの二つのコースに分かれ出発し、新緑や鳥のさえずりを楽しみながら思い思いのペースで約二時間をかけて登りました。

標高一四二・五メートルの山頂にたどり着くと、眼下に広がる三六〇度の眺望と薄紫色の満開のカタクリの花が登山者の心を癒しました。

また昼食時には、横田山の会によるカタクリについての紙芝居も行われました。この中では、カタクリは七年以上の歳月をかけ可憐な花を咲かせることや自然の中で生き残っていくための様々な特徴などが説明され、多くの方が興味深く見入っていました。

参加者からは、「きれいなカタクリの花が満開でとても癒されました」、「紙芝居や係りの方の親切な説明で、花や山のことや山分けが良くなりました」などの声が聞かれました。



神事の様子

鯛ノ巣山では山開き

また同じ日、鯛ノ巣山では山開き神事が行われました。今年の山開きには、地元の小学生や五歳の女の子また山口県からの登山愛好者など約四十名が出席しました。

神職が祝詞を奏上した後、代表者が玉串を奉奠し今年の登山の安全を祈りました。神事の後には記念登山が行われ、参加者は近年整備された約五六三〇メートルの遊歩道を元気に散策し登山を楽しんでいました。